

3時間め

持続可能な公的年金制度について考える

生徒の目標

- ・公的年金制度の財政方式やマクロ経済スライド等の持続可能な年金制度の仕組みについて学ぶ
- ・持続可能な年金制度を考えるにあたり、経済情勢など年金制度を取り巻く環境を踏まえた意見・考察について学ぶ

時間配分	授業内容	使用教材
導入 0分	<p>【1. 授業のねらいを知る】</p> <p>みなさんは、1時間目で公的年金制度の加入対象者や給付内容を学びました、2時間目では公的年金シミュレーターを使い、将来受け取れる年金額を試算したり、金融資産を運用した場合に将来受け取れる私的年金の金額について試算してきました。</p> <p>3時間目では、「年金制度の持続可能性」について考えてみたいと思います。</p>	(進行) ■特設サイト 3時間目 ■ワークシート 3時間目
授業 1分	<p>【1. 公的年金の価値って?】</p> <p>公的年金は他の保険制度とは異なり、実質的な価値を維持することを重視しています。ここでは、実質的な価値とは何かについて学んでみましょう。</p> 	導入まんが ■一緒に検証！公的年金 (第9話)

時間配分	授業内容	使用教材
6分	<p>【2. 物価変動にも対応しているってホント？（5分）】</p> <p>（1）物価変動とは？</p> <p>これから、物価変動について、いくつか皆さんに質問してみたいと思います。</p> <p>Q1：最近、物価は上がっていると思いますか？</p> <p>Q2：物価変動によって困った経験はありますか？</p>	<p>■ワークシート3時間目</p> <p>2物価変動にも対応しているってホント？</p>
11分	<p>【3. 自分たちの世代は年金はもらえないの？（5分）】</p> <p>（1）図表の解説</p> <p>日本の公的年金で重視しているのは国民に給付するお金と国の持っているお金のバランスを保つこと。</p> <p>①働く世代の負担が大きくなりすぎないように保険料の上限を固定</p> <p>②将来の世代の年金額を取り置いておくために、マクロ経済スライドという自動調整の仕組みで年金額を調整</p> <div data-bbox="316 1070 1220 1422" style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>①働く世代の負担が大きくなりすぎないように保険料の上限を固定</p> <p>②積立金を活用</p> <p>③将来世代の年金を確保するために年金額を調整</p> <p>④このバランスが100年後も取れているか確認</p> </div>	<p>■ワークシート3時間目</p> <p>P2</p>

授
業

時間配分	授業内容	使用教材
授業 / 小ワーク 21分	<p>【4. 自分たちの世代は年金はもらえないの？】</p> <p>(2) 持続可能な年金制度とは？ (1分)</p> <p>公的年金によって支払われる年金額は、経済状況に連動している。働く世代の給与が上がると保険料収入が増えるともいえます。</p> <p>この図表にもあるように日本経済が大きくなると、年金の給付に使える金額も大きくなるため、保険料率を上げる以外にも保険料収入を上げる方法があります。</p>  <p>(3) 小ワーク (7分)</p> <p>では、みなさんにご質問です。現在の厚生年金の保険料率は1時間目の授業で習ったとおり 18.3%ですが、保険料率を上げずに保険料収入を増やす方法というのはどういう方法があるか話し合ってみましょう。</p> <p>(4) まとめ (2分)</p> <p><技術革新と生産性の話></p>	■ワークシート 3時間目 P2

時間配分	授業内容	使用教材																
授業	<p>【5. 少子高齢化と年金制度】(2分)</p> <p>(1) 少子高齢化と社会保障というと、逆三角形をイメージする方も多いと思います。ただ、社会保障制度というのは人口バランスだけではなく、一人あたりが1時間あたりにどれくらい付加価値を生み出すことができるか?など様々な要因により決まります。</p> <p>何人の働く人で支えているか</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>1975年</td> <td>2015年</td> <td>2050年 (予測)</td> </tr> <tr> <td>支えられる人 (働いていない人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支える人 (働いている人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.88人</td> <td>1.02人</td> <td>1.09人</td> </tr> </table>		1975年	2015年	2050年 (予測)	支えられる人 (働いていない人)				支える人 (働いている人)					0.88人	1.02人	1.09人	<p>■ワークシート3時間目 P3</p>
	1975年	2015年	2050年 (予測)															
支えられる人 (働いていない人)																		
支える人 (働いている人)																		
	0.88人	1.02人	1.09人															
ワーク	<p>【6. ワーク】</p> <p>では、最後にワークをしてみたいと思います。年金制度を考えた場合、加入年数を延ばしたり、社会情勢に合わせて給付水準を自動調整したり(マクロ経済スライド)と年金制度自体を改正して持続可能にする方法や年金制度の枠組みではなく、経済活動や生産性を上げて年金制度の枠組みの外の要因で持続可能にする方法があります。</p> <p>みなさんは、年金制度を持続可能なものとするためにどんな取り組みが重要か、1つ書いてみましょう。</p> <p>では、時間を5分取りますので、ワークをしましょう!</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ワーク 3-1 持続可能な年金制度について考えてみよう!</p> <p>持続可能な年金制度のために、どのような取り組みが重要か、1つ書いてみましょう。</p> <p>年金制度改正以外の取り組み例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が長く働き続けられるようにする施策。 ・日本の経済を活性化させ、保険料水準と給付水準を向上させる取り組み。 ・子供を産んだ後職場に復帰しやすくするなど、女性の社会進出を促す取り組み。 <p style="text-align: right;">とっても難しいけど……知ること、考えることから始めてみよう!</p>  </div>	<p>■ワークシート3時間目 P3</p>																

時間配分		授業内容	使用教材
まとめ	45分	<p>みなさん、今日の年金の特別授業はいかがでしたでしょうか？</p> <p>公的年金は、老後だけではなく若いときから人生の様々な場面のリスクに備える保険制度ということを理解してもらえると嬉しいです。</p>	